

— 大樹町宇宙航空課ニュースレター —

Taiki Aerospace News

新たに13社から企業版ふるさと納税の寄附

北海道スペースポート（HOSPO）プロジェクトの資金として、2025年4月から9月までの間に、北海道内外の**13社**から企業版ふるさと納税の寄附をいただきました。

町では、ロケット射場や格納庫など北海道スペースポートの施設を拡充する「ハード整備」と、町内の宇宙関連企業をサポートする「ソフト支援」の2本柱でHOSPOプロジェクトを推進しています。

寄附金は、現在工事を進めている人工衛星用ロケット射場「Launch Complex 1(LC1)」の整備資金などに活用します。

今回の寄附により、2020年度～2025年度までの合計で、プロジェクト全体で延べ325社から30億6,130万円のご支援となりました（ハード：14億3,920万円、ソフト：16億2,210万円）。



再生冷却ってなに？～今日のなんちゃら雑学～

ロケットのエンジンは燃えると3,000度以上にもなるよ！

そこで「再生冷却」という仕組みを使って、燃える前の液体燃料をノズルの壁の中に通してエンジンを冷やすんだ。

冷やした燃料はそのまま燃やされるから、一石二鳥なんだよ～

ビジネスEXPOに出展しました

11月6日～7日にアクセス札幌で開催された北海道最大級のビジネスイベント「ビジネスEXPO」に、NPO法人北海道宇宙科学技術創成センター（HASTIC）およびSPACE COTANとともに出展しました。

ブースでは、北海道スペースポート（HOSPO）の取り組みのほか、インターステラテクノロジズ社（IST社）のZERO搭載用エンジンの燃焼試験で使用した実機など、道内で行われている宇宙開発の取り組みを紹介しました。

北海道の鈴木知事や北海道経済連合会の藤井会長らもブースを訪れ、IST社社員の説明に熱心に耳を傾けるなど、道内で進む宇宙の取り組みに関心を示されていました。

また、高校生や大学生など多くの学生も訪れ、宇宙分野への関心の高さがうかがえました。

2日間で延べ2万人以上が来場し、HOSPOのPRやLC1整備資金のための企業版ふるさと納税のPR、さらにはビジネス交流の場としても貴重な機会となりました。



ブースの様子



エンジン実機

日本宇宙少年団大樹分団研修旅行

11月8日～9日、日本宇宙少年団大樹分団の研修旅行で旭川市を訪れました。

科学館「サイパル」では、宇宙や科学をテーマにしたさまざまな展示や体験ブースを見学し、子どもたちは積極的に楽しみながら学んでいました。

また、土曜日限定のサイエンスショーでは、色の変化を観察する実験が行われ、興味深く学べる貴重な体験となりました。

さらに、普段なかなか会う機会のない大樹町外の団員とも交流ができ、団員同士の絆が深まる有意義な研修旅行となりました。



【集合写真in科学館サイパル】



【ホテルでの自由時間】



【宇宙体験ブース】

大樹中学校生徒職場体験

10月22日、大樹中学校の生徒2名が、職場体験学習で大樹町役場宇宙航空課に来てくれました。宇宙交流センターSORAや1,300メートル滑走路、建設中の射場などを見学し、大樹町がどのように「宇宙のまちづくり」に取り組んでいるのかを学んでもらいました。

生徒からは、「役場職員になるまでの過程や職場の環境などについて直接お話を聞くことができ、とても勉強になった」「ロケット発射場が完成し、実際にロケットが打ち上げられるのが楽しみ」といった感想が寄せられました。



【ロケット発射場（LC1,LP12）見学】



【1,300m滑走路で記念写真】